資治通鑑 第 103 巻

令和 3 年 12 月 13 日

【晉紀二十五】　起重光協洽，盡旃蒙大淵獻，凡五年。

■東晋、●代、（続国訳漢文大成．経子史部 第 6 巻 215p）

太宗簡文皇帝鹹安元年（辛未，３７１年）（太宗簡文皇帝、諱は昱、字は道萬、元帝の少子。）

前秦■［苻堅は袁瑾らに援軍出すも、桓溫は壽春を抜く］春，正月，**袁瑾**、**朱輔**は救いを秦に求め，秦王の**堅**は**瑾**を以て揚州刺史と為し，輔を交州刺史と為し，武衛將軍の武都王の**鑒**、前將軍の**張蚝**を遣わして歩騎二萬を帥いて之を救わしむ。大司馬の**溫**は淮南太守の**桓伊**、南頓太守の**桓石虔**等を遣わして**鑒**、**蚝**を石橋（淝水の北、安徽省淮泗道壽県、現・淮南市寿県）に撃ち，大いに之を破り，秦兵は退きて慎城（汝陰郡、河南省汝陽道正陽県、現・駐馬店市正陽県）に屯す。**伊**は，**宣**（桓宣は祖逖を補佐し祖約を防ぎ、襄陽を守り功有り）之子也。丁亥（１７日），**溫**は壽春を抜く。**瑾**及び**輔**並びに其の宗族を擒にして，建康に送りて之を斬る。

【前秦の苻堅の勢力拡大】

前秦［移住政策を打ち出す］秦王の**堅**は關東の豪傑及び雜夷十五萬戸を關中に徙し，烏桓を馮翊、北地に，丁零の**翟斌**を新安、（6-216p）澠池に處す。諸々の亂に因りて流移し、舊業に還らんと欲する者は，悉く之を聽す。

前秦［各州刺史の任命と人材登用］二月，秦は魏郡太守の**韋鍾**を以て青州刺史（廣固に治す、山東省濰坊市青州市）と為し，中壘將軍の**梁成**を兗州刺史（倉垣に治す、河南省開封市祥符区）と為し，射聲校尉の**徐成**を并州刺史（晉陽に治す、山西省太原市晉源区）と為し，武衛將軍の**王鑒**を豫州刺史（洛陽に治す）と為し，左將軍の**彭越**を徐州刺史（澎城に治す、徐州市）と為し，太尉司馬の**皇甫覆**を荊州刺史（豊陽に治す、後襄陽）と為し，屯騎校尉の天水の**姜宇**を涼州刺史（張天錫が支配）と為し，扶風内史の**王統**を益州刺史（東晋の支配）と為し，秦州刺史の西縣侯の（苻）**雅**を使持節、都督秦、晉（初めて置く）、涼、雍州諸軍事、秦州牧と為し，吏部尚書の**楊安**（既に仇地に克つ）を使持節、都督益、梁州諸軍事、梁州刺史と為す。復た（前年省く）雍州を置き，蒲阪に治す。長樂公の**丕**を以て使持節、征東大將軍、雍州刺史と為す。**成**は，**平老**之子、**統**は，**撾**之子也。**堅**は以(おも)えらく關東の初めて平らぎ，守令には宜しく人を得るべく，**王猛**をして便宜を以て英俊を簡び召し，六州の守令を補わ令め，授け訖(おえ)て，台に言いて正に除す（奉朝に奏上して正式に除官す）。

■三月，壬辰（２３日），益州刺史の建成の定公の**周楚**は卒す。

前秦秦の後將軍の金城の**俱難**は蘭陵太守の**張閔子**を桃山（蘭陵の昌慮県にあり、山東省濟寧道滕県の東南六十里、現・棗莊市滕州市）に攻め，大司馬の**溫**は兵を遣わして撃ちて之を卻(しりぞ)く。

前秦 仇地［秦の仇池討伐］秦の西縣侯の**雅**、**楊安**、**王統**、**徐成**及び羽林左監の**朱肜**、揚武將軍の**姚萇**（後の後秦主）は歩騎七萬を帥いて仇池公の**楊纂**を伐つ。

●代將の**長孫斤**は代王の**什翼犍**を弑せんと謀り，世子の**寔**は之を格(う)ち，脇を傷つけ，遂に**斤**を執り，之を殺す。

■夏，四月，戊午（２０日），大赦す。

前秦 仇地■［秦は仇池を制覇］秦兵は鷲峽（甘粛省渭川道戎県の北、現・隴南市成県）に至り，**楊纂**は衆五萬を帥いて之を拒む。（東晋の）梁州刺史の弘農の**楊亮**は督護の**郭寶**、**卜靖**を遣わして千餘騎を帥いて**纂**を助けしめ，秦兵と峽中に戰う。**纂**の兵は大敗し，死者は什に三、四。**寶**等も亦た沒し，**纂**は散兵を収めて遁げ還

る。西縣侯の**雅**は進みて仇池を攻め，**楊統**（前巻前年に楊纂と国を争う）は武都之衆を帥いて秦に降る。**纂**は懼れ，面縛して出で降り，**雅**は**纂**を長安に送る。**統**を以て南秦州刺史（秦は仇地に置く、秦州は上邽に治すその南）と為す。**(6-217p) 楊安**に都督南秦州諸軍事を加え，仇池に鎮せしむ。

前秦 前涼 ［王猛は張天錫を屈服稱籓させる］ **王猛**之**張天錫**を枹罕に破る也（101 巻海西公太和元年），其の將の敦煌の**陰據**及び甲士五千人を獲る。秦王の**堅**は既に**楊纂**に克ち，**據**を遣わして其の甲士を帥いて涼州に還らしめ，著作郎の**梁殊**、**閻負**をして之を送ら使め，因りて**王猛**に命じて書を為りて**天錫**を諭しめて曰く、

「昔貴の先公は**劉**（前趙）、**石**（後趙）に稱籓する者，惟だ強弱の審かなれば也。今涼土之力を論じるに，則ち往時よりも損す。大秦之德を語るに，則ち二趙（前趙・後趙）之匹に非ず。而して將軍は翻然として自ら絕つ（101 巻海西公太和元年），乃ち宗廟之福に非ざる無き也歟！秦之威，旁振する外無き（秦の勢力は四方を振るわす）を以てすれば，以て弱水（張掖河）を回（続は回）らして東流せ使め，江、河を返して西に注が使む可し。關東は既に平らぎ，將に兵を河右に移さんとし，恐らくは六郡（張軌の支配した河西、武威・張掖・酒泉・敦煌・西郡・西海）の士民の能く抗する所に非ざる也。**劉表**は漢南を保つ可きと謂い，將軍は西河を全くす可しと謂うも，吉兇は身に在り，元龜は遠からず，宜しく深算妙慮し，自ら多福を求むべし，六世（張軌以来九主）之業をして一旦に而して地に墜ち使むる無かれ也！」

天錫は大いに懼れ，遣使して謝罪して稱籓す。**堅**は**天錫**を拜して使持節、都督河右諸軍事、驃騎大將軍、開府儀同三司、涼州刺史、西平公とす。

【吐谷渾の内紛】

吐谷渾 ［吐谷渾の朝貢と内肛］ 吐谷渾王の**辟奚**は**楊纂**の敗れるを聞き，五月，遣使して馬千匹、金銀五百斤を秦に獻ず。秦は**辟奚**を以て安遠將軍、漒川侯と為す。**辟奚**は，**葉延**（94 巻成帝咸和四年に見える）之子也，學を好み，仁厚く而して威斷無し。三弟は專ら恣にし，國人は之を患う。長史の**鐘惡地**は，西漒（漒川の東西）の羌豪也，司馬の**乞宿雲**に謂って曰く、

「三弟は縱橫にして，勢いは**王**の右に出，幾んど亡國矣。吾ら二人は位は元輔と為り，豈に坐して而して之を視るを得んや！詰朝（明日朝）月望（十五日），文武は並びて會す，吾は將に焉を討たんとす。**王**之左右は皆な吾が羌子なり，目を轉じて一顧し，立ちどころに擒となす可き也。」

宿雲は先ず**王**に白すと請い，**惡地**は曰く、

「**王**は仁に而して斷無し，之を白せば必ず從わず。萬に一事洩れれば，吾が屬は類無し矣。事は已に口を出でて，何の中ばに變す可けんや！」

遂に坐に於いて三弟を收め，之を殺す。**辟奚**は驚怖し，自ら床下に投げ，**惡地**、**宿雲**は趨りて而して之を扶けて曰く、

「臣は昨夢みる**先王**は臣に勅して雲う、『三弟は將に逆を為さんとす，討たざる可からず。』と。故に之を誅する耳。」

辟奚は是に由りて病を發して恍惚となり，世子の**視連**に命じて曰く、

「吾が禍いは同生（兄弟）に及ぶ，何を以てか之を地下に見んや！國事の大小は，汝に任じて之を治めしめ，**(6-218p)** 吾が餘年は殘命にして，寄食し而して已む。」

遂に憂を以て卒す。

吐谷渾 ［吐谷渾の視連立つ］ **視連**は立ち，飲酒游畋せざる者七年，軍國之事は，之を將佐に委ねる。**鐘惡**

地は諫めて，以て為す、
「人主は當に自ら娯樂し，威を建て德を布くべし。」
視連は泣いて曰く、
「孤は先世より以來，仁孝忠恕を以て相い承ける。**先王**の友愛之終わらざるを念い，悲憤し而して亡す。孤は業を纂すると雖も，屍存（生きた屍）し而して已む，聲色游娯は，豈に安んずる所なる也！威德之建つは，當に之を將來に付す耳。」

●代の世子の**寔**は病傷し而して卒す。（長孫斤の傷が元）
前秦秋，七月，秦王の**堅**は洛陽に如く。
●［拓跋珪・北魏初代皇帝の出生］代の世子の**寔**は東部大人の**賀野干**（賀蘭部の酋長）之女を娶り，遺腹の子有り，甲戌（７日），男を生み，代王の**什翼犍**は之が為に境内に赦し，名づけて**涉圭**と曰う。（拓跋珪・北魏初代皇帝）
■［周仲孫を益州刺史］大司馬の**溫**は梁、益の寇多く，**周氏**の世々（梁州益州に）威名有るを以て，八月，寧州刺史の**周仲孫**を以て益、梁二州諸軍事を監し，益州刺史を領せしむ。**仲孫**，**光**（93 巻明帝大寧三年に見える）**之**子也。
前秦秦は光祿勳の**李儼**を以て河州刺史と為し，武始（現・定西市臨洮県）に鎮せしむ。
前秦［王猛は約束通り鄧羌を司隸校尉に推薦］**王猛**は潞川之功（前巻前年の約束）を以て，**鄧羌**を以て司隸と為すを請う。秦王の**堅**は下詔して曰く、
「司隸校尉は，皇畿を董牧（監督治理）し，吏責は甚だ重し，名將を優禮する所以に非ず。**光武**（後漢の光武帝）は吏事を以て功臣を處せざるは，實に之を貴ぶより也。**羌**は**廉**、**李**（廉頗、李牧）之才有り，**朕**は方に征伐之事を以て委ねるに，北に匈奴を平らげ，南に揚、越を蕩すは，**羌**之任也，司隸は何ぞ以て之に嬰るに足らん！其れ號を鎮軍將軍に進め，位を特進させん。」
前秦九月，秦王の**堅**は長安に還る。歸安の元侯の**李儼**は上邽に卒し，**堅**は復た**儼**の子の**辯**を以て河州刺史と為す。
前秦［王洛の苻堅の猟を止める戒め］冬，十月，秦王の**堅**は鄴に如き，西山に獵し，旬餘にして返るを忘れる。伶人（楽人）の**王洛**は馬を叩いて諫めて曰く、
「**陛下**は群生の系かる所，今久しく獵して歸らず，一旦患いが不虞に生ずれば，**太后**は、天下を奈何せんや！」
堅は之が為に獵を罷めて宮に還る。**王猛**は因りて進言して曰く、
「畋獵は誠に急務に非ず，**王洛**之言は，忘るる可からざる也。」
堅は**洛**に帛百匹を賜り，官箴左右（左右の戒め役）に拜して，是より復た獵せず。

【桓溫は皇帝廃立で権力誇示】
■［桓溫は枋頭之恥を越えず、謀略す］大司馬の**溫**は其の材略位望を恃みて，陰かに不臣之志を蓄え，嘗て枕を撫でて歎じて曰く、
「男子は芳を百世に流す能わず，亦た當に臭を萬年に遺すべし！」
術士の**杜昏**は能く人の貴賤を知り，**溫**は**昏**に己の祿位の至る所を以て問い，**昏**は曰く、
「**明公**は勳は宇宙に格り，位は人臣を極めん。」(6-219p)

溫は悦ばず。**溫**は先ず河朔の功を立て，以て時望を収め，還りて九錫を受けんと欲す。枋頭之敗に及び，威名は頓挫す。既に壽春に克ち，參軍の**郗超**に謂って曰く、

「以て枋頭之恥を雪ぐに足る乎？」

超は曰く、

「未だし也。」

之久しく，**超**は**溫**に就きて宿し，中夜，**溫**に謂って曰く、

「**明公**は都(すべ)て慮する所無き乎？」

溫は曰く、

「卿は言う有らんと欲する邪？」

超は曰く、

「**明公**は天下の重任に當たる，今六十之年を以て，大擧して敗れ，不世之勳を建てざれば，以て民望を鎮め愜(かな)う足らず！」（枋頭の敗戦の痛手は大きい）

溫は曰く、

「然らば則ち奈何や？」

超は曰く、

「**明公**は伊、霍（商の伊尹と漢の霍光）之擧を為さざる者(は)，以て大威權を立て，四海を鎮壓（鎮圧）する無し。」

溫は素より心有り，深く以て然りと為し，遂に之と與に議を定める。**帝**は素より謹しみて過無く，而るに床第（寝台と竹のすだれ、転じて閨房・婦女）は誣い易きを以て，乃ち言う、

「**帝**は早に痿疾（痺れ病）有り，嬖人（宦官）の**相龍**、**計好**、**朱炅寶**等は，內寢に參侍し，二美人の**田氏**、**孟氏**は三男を生む，將に儲を建て王を立て，皇基を傾移せんとす。」

密かに此の言を民間に播(ま)き，時の人は其の虛實を審じる能う莫し。

■<u>［桓溫は廃帝の太后令を強要］</u>十一月（閏月?），癸卯（元嘉暦十二月９日?），**溫**は廣陵より將に姑孰に還らんとし，白石（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県）に屯す。丁未（元嘉暦十二月１３日?），建康に詣り，**褚太后**に諷し，**帝**を廢して，丞相の會稽王の**昱**を立てんと請い，並びに令草（太后令の草案）を作りて之を呈す。**太后**は方に佛屋（小さな仏堂、部屋の中の小規模なものか）に在りて香を燒(た)く，內侍は啟して雲(い)う、

「外に急奏有り。」

太后は出で，戶に倚り奏を視るに數行にして，乃ち曰く、

「我は本より自ら此れを疑えり！」

半ばに至り，便ち止む，筆を索(もと)めて之に益して曰く、

「未亡人（自身のこと）は不幸にも此の百憂に罹(かか)る，存沒を感念し，心は焉(ここ)に割かるるが如し。」

■<u>［帝を廃して會稽王の昱を立てる］</u>己酉（元嘉暦十二月１５日?），**溫**は百官を朝堂に集める。廢立は既に曠代（長年月を経ること）の無き所，其の故典を識る有る者莫く，百官は震慄す。**溫**は亦た色を動かし，為す所を知らず。尚書僕射の**王彪之**は事の止める可からざるを知り，乃ち溫に謂って曰く、

「公は皇家に阿衡たり（殷の伊尹を阿衡といい、尹は王の徳無きにより廃すに喩える），當に先代に倚傍（因襲）するべし。」

乃ち命じて漢書の《霍光傳》を取り，禮度儀制（霍光が昌邑王を廃する故事に倣う）は，須臾に定まる。**彪之**は朝服して階に當たり，神彩毅然として，曾て懼れる容は無し。文武の儀准は，定を取らざるは莫く，朝廷は此を以て之に服す。是に於いて**太后**令を宣し，**帝**を廢して東海王と為し，丞相、錄尚書事、會稽王の**昱**を以て皇極を統承せしむ。百官は太極の前殿に入り，**溫**は督護の**竺瑤**、散騎侍郎の**劉亨**をして**帝**の璽綬を収

め使む。**帝**は白帢（白色の頭包み）單衣を著て，歩いて西堂を下り，犢車（諸侯の車）に乗り神虎門（建康宮の西門）を出で，群臣は拝辭し，歔欷（啜り泣く）せざる莫し。侍御史、殿中監（天子の殿中の監督）は兵百人を將いて東海の第に衛送す。**(6-220p)** **溫**は百官を帥いて乘輿法駕を具え，**會稽王**を會稽の邸に迎える。**王**は朝堂に於いて服を變え，平巾幘、單衣を著て，東に向いて流涕し，璽綬を拝受し，是の日，**皇帝**に即位し，改元す（咸安）。**溫**は出でて中堂に次し，兵を分けて衛に屯す。**溫**は足に疾有り，詔して乘輿して入殿せしむ。**溫**は辭を撰び，廃立の本意を陳述せんと欲し（あらかじめ辭を選び入りて見えて陳ぜんと欲す），**帝**は引見して，便ち泣（なみだ）下ること數十行，**溫**は兢懼し，竟（つい）に一言する能わず而して出ず。

■<u>［桓溫は武陵王の晞を廃す］</u>太宰の武陵王の**晞**は，武事を習うを好み，**溫**の忌む所と為り，之を廃せんと欲し，事を以て**王彪之**に示す。**彪之**は曰く、

「**武陵**は親尊にして，未だ顯かな罪は有らず，猜嫌之間を以て便ち相い廃徙するは可からず。公は聖明を建立し，當に王室を崇奨し，**伊**、**周**と美を同じくす。此れ大事なり，宜しく更に深く詳（つまびら）かにするべし。」

溫は曰く、

「此れは已に事成れり，卿は復た言う勿れ！」

乙卯（元嘉暦十二月２１日），**溫**は表す、

「**晞**は輕剽を聚め納め，息（子）の**綜**は矜忍（矜驕残忍）なり。**袁眞**の叛逆するや，事は相い連染（関連）する。頃日（ころおひ）猜懼し，將に亂階を成さんとす。請う**晞**の官を免じて，**王**を以て籓に歸さん。」

之に從う，並びて其の世子の**綜**、梁王の［**王逢**］等の官を免ず。**溫**は魏郡太守の**毛安之**をして所領を帥いて殿中に宿衛せ使む。**安之**は，**虎生**之弟也。

■庚戌（暦混乱?元嘉暦十二月１６日），**褚太后**を尊して**崇德太后**と曰う。

■<u>［新蔡王の晃の助命と殷涓らの族誅］</u>初め，**殷浩**の卒するや，大司馬の**溫**は人をして書を齎（もたら）して之を弔いせ使む。**浩**の子の**涓**は答えず，亦た**溫**に詣らず，而して武陵王の**晞**と游ぶ。廣州刺史の**庾蘊**は，**希**之弟也，素より**溫**と隙有り。**溫**は**殷**、**庾**の宗の強きを惡み，之を去らんと欲す。辛亥（歴混乱?・元嘉暦十二月なら１７日），其の弟の**祕**をして新蔡王の**晃**（晃の父の邈は汝南王祐の子で新蔡王を継ぐ）に逼りて（大極殿の）西堂に詣りて叩頭して自ら列（陳列）せ使め，

「**晞**及び子の**綜**、著作郎の**殷涓**、太宰の長史の**庾倩**、掾の**曹秀**、舍人の**劉彊**、散騎常侍の**庾柔**等と反を謀る」

と稱せ使む。**帝**は之に對して流涕し，**溫**は皆な廷尉に收付す。**倩**、**柔**は，皆な**蘊**之弟也。癸丑（歴混乱?・元嘉暦十二月閏月１９日），**溫**は東海王の三子及び其の母（田氏と孟氏）を殺す。甲寅（歴混乱?・元嘉暦十二月２０日），御史中丞の譙の**王恬**は**溫**の旨を承け，律に依りて武陵王の**晞**を誅せんと請う。詔して曰く、

「悲惋（悲憤怨恨）惶怛（恐れ驚く）し，聞くに忍ぶ所に非ず，況んや之を言わん哉！其の更に詳議せよ！」

恬は，**永**（王敦の乱に死す）之孫也。乙卯（歴混乱?・元嘉暦十二月２１日），**溫**は重ねて表して固く**晞**を誅するを請い，詞は甚だ酷切なり。**帝**は乃ち**溫**に手ずから詔を賜って曰く、

「若し晉祚が靈長ならば，公は便ち宜しく前詔を奉行すべし。如し其れ大運（大なる運命）去れば矣，請う賢路を避けん。」

溫は之を覽じ，流汗して色を變じ，乃ち奏して**晞**を廃し及び三子，家屬は皆な新安郡（呉の孫権が丹陽郡を分けて新都郡を立て、武帝太康元年に新安郡に改名、浙江省金華道淳安県の西、現・杭州市淳安県）に徙す。丙辰（元嘉暦十二月２２日），新蔡王の**晃**を免じて庶人と為し，衡陽（湖南省湘江道湘潭県、現・湘潭市湘潭県）に徙す。**殷涓**、**庾倩**、**曹秀**、**劉強**、**庾柔**は皆な族誅せられ，**庾蘊**は鴆を飲んで死す。**蘊**の兄の東陽太守の**友**の子の婦は，**桓豁**之女也，

故に**溫**は特に之を赦す。**庾希**は難を聞き，**(6-221p)** 弟の會稽王の參軍の**邈**及び子の**攸之**と與に海陵（廣陵郡、江蘇省淮揚道泰県の治所、現・泰州市姜堰区）の陂澤の中に逃げる。**溫**は既に**殷**、**庾**を誅し，威勢は翕赫（盛なる貌）なり，侍中の**謝安**は**溫**を見て遙拜す。**溫**は驚きて曰く、

「**安石**，卿は何事ぞ乃ち爾るや？」

安は曰く、

「未だ君は前に拜し，臣は後に揖（両手を胸の前で組み、これを上下したり前にすすめたりする）する有らず。」

■戊午（元嘉暦十二月２４日），大赦し，文武に位二等を增す。

■［桓溫は固辞して姑孰に帰還］己未（元嘉暦十二月２５日），**溫**は白石に如き，上書して姑孰に歸るを求める。庚申（元嘉暦十二月２７日），詔して**溫**を丞相に進め，大司馬は故の如し，京師に留めて政を輔けしむ。**溫**は固辭し，仍ほ鎮に還るを請う。辛酉（元嘉暦十二月２８日），**溫**は白石より姑孰に還る。

前秦［桓溫の皇帝廃立に苻堅は驚く］秦王の**堅**は**溫**の廢立するを聞き，群臣に謂って曰く、

「**溫**は前に灞上に敗れ（99 巻穆帝太和十年に見える），後に枋頭に敗れ（前巻太和四年に見える），愆ちを思いて自ら貶して以て百姓に謝す能わず，方に更に君を廢し以て自ら說く（言い訳）は，六十之叟，擧動は此くの如し，將に何を以てか自ら四海に容れんとする乎！諺に曰く、『其の室に怒り而して父に色を作す。』其れ**桓溫**之謂い矣。」

前秦［王猛の六州の任の辞退を入れず］秦の車騎大將軍の**王猛**は，六州の任重きを以て，秦王の**堅**に言いて，

「請う改めて親賢に授けん。。及び府選の便宜（人材登用の専任）は，輒ち已に停寢し，別に一州を乞いて自ら效さん。」

堅は報じて曰く、

「**朕**之卿に於けるや，義は則ち君臣なれど，親しきは骨肉を逾え，復た**桓**、**昭**之**管**、**樂**（斉の管仲、燕の昭王）有り，（劉備）**玄德**之（諸葛）**孔明**有ると雖も，自ら謂うに之を逾える。夫れ**人主**は才を求めるに勞し，士を得るに逸す。既に六州を以て相い委ね，則ち朕は東顧之憂い無く，優崇と為す所以に非らず，乃ち**朕**は自ら安逸を求める也。夫れ之を取るは易からず，之を守るは亦た難く，苟しくも任は其の人に非ずば，患いは慮表（意外）に生じん，豈に獨り**朕**之憂いのみなるや，亦た卿之責也，故に位を台鼎に虛しくし而して分陝を以て先と為す。卿は未だ**朕**の心を照らさず，殊に素望に乖く。新政は才を俟つ，宜しく速やかに銓補すべし。東方の化の洽ねくを俟ち，當に袞衣（上公の服。周公の東征するや、周の大夫は為に九罭の詩を作る、その辭に曰く、九罭の魚鱒魴、我この子を觀るに、袞衣繡裳せりと。又曰く、是を以て袞衣あり、我が公を以て帰る無かれ、我が心をして悲ましむる無かれと。）して西に歸らん。」

仍て侍中の**梁讜**を遣わして鄴に詣りて旨を諭さしめ，**猛**は乃ち事を視るに故の如し。

【帝は桓温による廃立を懼れる】

■［海西縣侯に封じる］十二月，大司馬の**溫**は奏す、

「廢放之人は，之を屏けて以て遠くし，以て黎元（人民、庶民）に臨む可からず。**東海王**は宜しく昌邑の故事（24 巻の漢の昭帝元年にあり）に依りて，吳郡に第を築くべし。」

太后は詔して曰く、

「庶人為ら使むるは，情において忍びざる有り，特に王に封ず可し。」

溫し又た奏す、
「海西縣侯に封じる可し。」
庚寅（元嘉暦一月２６日?），海西縣公に封じる。
■［帝は常に桓溫を恐れ、郗超は哀れむ］**溫**の威は内外に振い，**帝**は尊位に處ると雖も，拱默し而して已む，常に廢黜を懼れる。是より先，熒惑は太微の端門を守り（星が居座る），月を逾えて而して**海西**は廢せられる。辛卯（元嘉暦一月２７日?），熒惑は逆行して太微に入り，**帝**は甚だ之を惡む。（6-222p）中書侍郎の**郗超**は直（宿直）に在り，**帝**は**超**に謂って曰く、
「命之修短は，本より計られざる所なり，故に當に復た近日の事無き邪？」
超は曰く、
「大司馬の臣**溫**は，方に内に社稷を固め，外に經略を恢（おお）いにし，非常之事は，臣は百口を以て之を保たん。」
超が急（暇）を請いて其の父を省するに及びて，**帝**は曰く、
「意を尊公に致せ，家國之事は，遂に此に至るは，吾の道を以て匡衛（預かり衛る）する能わざるに由る，愧歎（きたん）之深きことは，言は何ぞ能く諭（さと）さんや（言語に盡くすべきに非ざる）！」
因りて**庾闡**の詩を詠じて雲う、
「志士は朝の危うきを痛み，忠臣は主の辱かしめを哀しむ。」
遂に泣下りて襟を沾（ぬ）らす。**帝**は風儀は美しく，容止善く，典籍に心を留め，凝塵は席に滿ちるも，湛する如き也。神識恬暢なりと雖も，然るに世を濟る大略は無く，**謝安**は**惠帝**之流れ（同様）と以て為し，但だ清談は差（や）や勝る耳。
■［郗超と謝安］**郗超**は**溫**の故を以て，朝中は皆な畏れて之に事える。**謝安**は嘗て左衛將軍の**王坦之**と共に**超**に詣り，日旰（く）れども未だ前むを得ず，**坦之**は去らんと欲し，**安**は曰く、
「獨り性命の為に須臾を忍ぶ能わざる邪？」

前秦 乞伏［前秦は乞伏司繁を屈服させる］秦は河州刺史の**李辯**を以て興晉太守を領し，還りて枹罕に鎮せしむ。涼州を徙して（天水より）金城（現・蘭州市）に治せしむ。**張天錫**は秦の兼併之志有るを聞き，大いに懼れ（拠点を近くに移したので），壇を姑臧の南に立て，三牲（生贄）を刑す。其の官屬を帥い，遙かに晉の三公と（同）盟す。從事中郎の**韓博**を遣わして奉表して盟文を送り，幷せて大司馬の**溫**に書を獻じ，期するに明年の夏を以て同じく大舉して，上邽（現・天水市秦州区）に會さんと。是の歳，秦の益州刺史の**王統**は隴西の鮮卑の**乞伏司繁**を度堅山（甘肅省蘭山道金県、現・蘭州市榆中県、「五胡十六国」には白銀市靖遠県とする）に攻める，**司繁**は騎三萬を帥いて**統**を苑川（現・甘肅省蘭州市榆中県）に拒む。**統**は潜かに度堅山を襲い，**司繁**の部落五萬餘は皆な**統**に降る。其の衆は妻子の已に秦に降るを聞き，戰わず而して潰ゆ。**司繁**は歸る所無く，亦た**統**に詣りて降る。秦王の**堅**は**司繁**を以て南單于と為し，之を長安に留める。**司繁**の從叔の**吐雷**を以て勇士（元々漢の県名で晉は廃す、甘肅省蘭山道金県の東北、現・蘭州市榆中県）護軍と為し，其の部衆を撫でしむ。

太宗簡文皇帝鹹安二年（壬申，３７２年）

前秦春，二月，秦は清河の**房曠**を以て尚書左丞と為し，**曠**の兄の**默**及び清河の**崔逞**、燕國の**韓胤**を征して尚書郎と為し，北平の**陽陟**、**田勰**、**陽瑤**を著作佐郎（著作郎の補佐の官）と為し，**郝略**を清河の相と為し，

皆な關東の士望（士人に名望あり）にして，**王猛**の薦める所也。**瑤**は，**騖**之子也。（旧燕国の地域の人材登用）

前秦［慕容垂は慕容評の殺戮を進言、辺郡左遷へ］冠軍將軍の**慕容垂**は秦王の**堅**に謂って曰く、

「臣の叔父の**評**は，燕之**惡來**（紂王の多力の側近）の輩也，宜しく復た聖朝を污すべからず，願はくは**陛下**は燕の為に之を戮すべし。」

堅は乃ち**評**を出して范陽（現・河北省涿州市）太守と為し，燕之諸王を悉く邊郡（辺境の郡）に補す。（范陽県は 1. 河北省涿州市の古称。2. 河北省保定市定興県の古称。3. 山東省済寧市にかつて存在した県）(6-223p)

★［慕容評の人物評、苻堅の失策］臣光は曰く、

古之人は，人之國を滅して而も人悦ぶは，何ぞ哉？人の為に害を除く故也。彼の**慕容評**なる者は，君を蔽い政を專らにし，賢を忌みて功を疾み（慕容垂に対する仕打ち），愚かにも闇く貪虐にして，以て其の國を喪い，國亡びて死せず，逃遁して擒に せ見る（高句麗に捕らえられ送還、前巻海西公太和五年に見える）。秦王の**堅**は以て誅首を為さず，又た從いて而して寵して之に秩（官位に徐す）す，是れは一人を愛し而して一國之人を愛せざる也，其の人心を失うこと多き矣。是を以て恩を人に施し而して人は之を恩とする莫く，誠を人に盡くして而して人は之を誠とする莫し。功名を遂げず，身を容れる所無くして卒わる，其の道を得ざるに由る故也。

【簡文帝の急死、桓溫に禅譲せず】

■三月，戊年（２５日），侍中の**王坦之**を遣わして大司馬の**溫**を征して入りて輔けしむ，**溫**は復た辭す。

前秦[苻堅の人材登用令と解雇令]秦王の**堅**は詔す、

「關東之民は學は一經に通じ，才は一藝を成す者は，在所の郡縣は禮を以て之を送るべし。在官百石以上にして，學は一經に通じず，才は一藝を成さざる者は，罷め遣りて民に還さん。」

■夏，四月，**海西公**を吳縣の西柴裡に徙し，吳國內史の**弓彝**に敕して防衛せしめ，又た御史の**顧允**を遣わして之を監察せしむ。**彝**は，**協**（弓協は元帝に信用せらる）之子也。

前秦六月，癸酉（１２日），秦は**王猛**を以て丞相と為し、中書監、尚書令、太子太傅、司隷校尉，特進、常侍、持節、將軍、侯は故の如し。陽平公の**融**を使持節、都督六州諸軍事、鎮東大將軍、冀州牧と為す。（王猛に代わりて鄴に鎮す）

■［庾希の反乱を鎮圧］**庾希**、**庾邈**は故の青州刺史の**武沈**之子の**遵**と，衆を聚めて夜京口城に入り，晉陵（吳は無錫以西を比陵郡とし、永嘉五年晉陵郡とす、京口に治す）太守の**卞眈**は城を逾えて曲阿に奔る。**希**は、

「**海西公**の密旨を受け、大司馬の**溫**を誅せん」

と詐稱す。建康は震擾し，內外は戒嚴す。**卞眈**は諸縣の兵二千人を發して**希**を擊ち，**希**は敗れ，閉城して自ら守る。**溫**は東海（元帝は吳郡を割いて置く）內史の**周少孫**を遣わして之を討たしむ。秋，七月，壬辰（１日），其の城を拔き，**希**、**邈**及び其の親黨を擒とし，皆な之を斬る（庾亮の後は全滅）。**眈**は，**壺**（元帝・明帝に事え蘇峻の乱に死す）之子也。

■［帝の突然の不豫］甲寅（２３日），**帝**は不豫なり，急に大司馬の**溫**を召して入りて輔けしめ，一日一夜にして四詔を發す。**溫**は辭して至らず。初め，**帝**は會稽王と為り，**王述**の從妹を娶りて妃と為し，世子の**道生**及び弟の**俞生**を生む。**道生**は疏躁にして行い無し，母子は皆な幽廢を以て死す。餘の三子，**郁**、**朱生**、**天流**は，皆な早く夭す。諸姬は孕（妊娠）を絕ち將に十年たり，**王**は善く相する者をして之を視さ使め，皆な曰く、

「其の人に非ず。」

又た諸々の婢媵（婢妾）を視使め，**李陵容**という者有り，織坊の中に在り，黒く而して長し，宮人は之を謂うに、
「崑崙」（種族名、南史に「林邑以南皆挙髪黒身、通称崑崙」）
相者は驚きて曰く、
「此れ其の人の也！」
王は之を召して寝に侍らしめ，子の**昌明**及び**道子**を生む。己未（２８日），**昌明**を立てて**皇太子**と為す，生まれて十年矣。**道子**を以て琅邪王と為し，**(6-224p)**會稽國を領せしめ，以て**帝**の母の**鄭太妃**之祀を奉じしむ。大司馬の**溫**に遺詔して、
「**周公**の**居攝**（摂政の地位）の故事に依るべし。」
又た曰く、
「少子の輔ける可き者は之を輔け，如し可からざれば，君は自ら之を取るべし。」
侍中の**王坦之**は自ら詔を持ちて入り，**帝**の前に於いて之を毀る。**帝**は曰く、
「天下は，儻（思いがけずや、偶然に）來之運，卿は何の嫌う所！」
坦之は曰く、
「天下は，**宣**、**元**（宣帝が始め元帝が中興す）之天下，**陛下**は何ぞ之を専らにするを得んや！」
帝は乃ち**坦之**をして改詔せ使めて曰く、
「家國の事は一に**大司馬**に稟すること，**諸葛武侯**、**王丞相**（王導）の故事の如くなり。」
是の日，**帝**は崩ず。(年 53)
■［桓溫に禅譲せず、太子は即位］群臣は疑い惑い，未だ敢えて嗣を立てず，或は曰く、
「當に**大司馬**の處分を須つべし。」
尚書僕射の**王彪之**は正色して曰く、
「**天子**は崩じ，**太子**が代わりて立つは，**大司馬**は何の異なるを得る容けんや！若し先ず面して咨れば，必ず反って責める所と為らん。」
朝議は乃ち定まる。**太子**は**皇帝**に即位し，大赦す。**崇徳太后**（褚太后、穆帝に政を帰し崇徳宮に居る）は令して，**帝**の沖幼を以て，加えるに諒闇に在りて，**溫**をして**周公**の**居攝**の故事に依ら令む。事は已に施行され，**王彪之**は曰く、
「此くは常と異なる大事なり，**大司馬**は必ず當に固く讓るべく，萬機をして停滞せ使め，山陵を稽廃せん，未だ敢て令を奉ぜず，謹みて具して封還（詔書を封じて還す）す。」
事は遂に行われず。
■［桓溫は王坦之、謝安を怨む］**溫**は**簡文**が臨終にて己に位を禪るを望み，爾らずんば便ち當に攝に居るべしと。既に望む所に副わず，甚だ憤怨し，弟の**沖**に書を與えて曰く、
「遺詔は吾をして**武侯**、**王公**の故事（諸葛亮と王導）に依ら使む耳。」
溫は**王坦之**、**謝安**の為す所と疑い，心に之を銜む。**謝安**に詔して**溫**を征して入りて輔けしめ，**溫**は又た辞す。

【秦は王猛に全権委任】

前秦［苻堅は全権をほぼ王猛に委任］八月，秦の丞相の**猛**は長安に至り，復た都督中外諸軍事を加える。
猛は辞して曰く、

「元相（丞相）之重き，儲傅（太子の太傅）之尊き，端右（尚書令）の事は繁き，京牧（司隷校尉）の任は大きく，戎機（中外諸軍事）を總督し，帝の命を出納し（中書監常侍），文武は兩つとも寄り，鉅細（大小と無く）並びに關するは，**伊、呂、蕭、鄧**（伊尹、呂望、蕭何、鄧禹）之賢を以てすら，尚ほ兼ねる能わず，況んや臣**猛**之無似（不肖）なるをや！」

章三四たび上（たてまつ）り，秦王の**堅**は許さず，曰く、

「**朕**は方に四海を混壹し，卿に非ざれば誰か委ねる可き者あるや？卿之宰相を辭するを得ざるは，猶ほ**朕**が天下を辭するを得ざるがごとき也。」

前秦［王猛は剛明清肅，善惡著白］**猛**は相と為り，**堅**は上に端拱（正身拱手、指恭敬有礼）し，百官は己の下に總（す）べ，軍國內外之事は，之に由らざる無し。**猛**は剛明清肅にして，善惡は著白に，屍素（屍位素餐の者、無為無能の高官）を放黜（放ち罷免）し，幽滯（埋もれた士）を顯拔（抜擢）し，農桑を勸課し，軍旅を練習し，官は必ず才に當たり，刑は必ず罪に當たる。是に由りて國は富み兵は強くし，戰いて克たざるは無く，秦國は大いに治まる。**堅**は**太子**の**宏**及び長樂公の**丕**等に敕して曰く、

「汝は王公に事えること，(6-225p) 我に事える如きにする也。」

前秦［苻融と申紹］陽平公の**融**は冀州に在り，綱紀（衆事を綱紀する官）を高選し，尚書郎の**房默**、河間の相の**申紹**を以て治中別駕と為し，清河の**崔宏**を州從事と為し，記室を管せしむ。**融**は年少くして，政を為すに新奇を好み，苛察を貴ぶ。**申紹**は數々規正し，導くに寬和を以てし，**融**は之を敬すと雖も，未だ盡く從う能わず。後に**紹**は出でて濟北太守と為り，**融**は屢々過失を以て聞こえ，數々譴讓（けんじょう）（不正や過失を厳しく咎める）を致し，乃ち自ら恨んで**紹**の言を用いず。

前秦［苻融は申紹から高泰を推薦され、王猛・苻堅対処］**融**は嘗て擅（ほしいまま）に學舍を起こすに坐して有司の糾する所と為り，主簿の**李纂**を遣わして長安に詣りて自ら理せしむ。**纂**は憂懼し，道に卒す。**融**は**申紹**に問う、

「誰か使者にする可きや？」

紹は曰く、

「燕の尚書郎の**高泰**は，清辯にして膽智（度胸と智慧）有り，使いとなす可き也。」

是より先丞相の**猛**及び**融**は屢々**泰**を辟し，**泰**は起たず。是に至り，**融**は**泰**に謂って曰く、

「君子は人之急を救う，卿は復た辭すを得ず！」

泰は乃ち命に從う。長安に至り，丞相の**猛**は之を見，笑いて曰く、

「**高子伯**は今に於いて乃ち來たるは，何の其の遲き也！」

泰は曰く、

「罪人は來たりて刑に就く，何の遲速を問うや！」

猛は曰く、

「何の謂い也？」

泰は曰く、

「昔魯の**僖公**は泮宮（詩の「魯頌泮水」は僖公が能く泮宮を修めるを頌する也）を以て頌（はん）（詩経の誉め称える歌の分類）を發し，劉（続は齊）の**宣王**は稷下（史記に齊の宣王は文学遊説の士を喜び 76 人に列第を稷下に賜う、学士は数百千人にならんとす）を以て聲を垂れる。今**陽平公**は學宮を開建して，**劉**、**魯**を追蹤し，未だ明詔の褒美を聞かず，乃ち更に有司の舉劾を煩わす。明公は聖朝に阿衡（殷王朝創始期の伝説的な賢臣）たり，懲勸（勧善懲悪）すること此くの如し，下吏は何んぞ其の罪を逃がるる所を乎！」

猛は曰く、
「是れ吾が過ち也。」
事は遂に釋くるを得る。**猛**は因りて歎じて曰く、
「**高子伯**は豈に**陽平**の宜しく吏とする所乎！」
秦王の**堅**に言う。**堅**は召して見，之を悦び，問うに治を為す之本を以て，對えて曰く、
「治の本は人を得るに在り，人を得るは舉を審にする在り，舉を審にするには真を核めるに在り，未だ官は其の人を得て而も國家の治まらざる者は有らざる也。」
堅は曰く、
「辭は簡にして而して理博しと謂う可し矣。」
以て尚書郎と為す。**泰**は固く州に還るを請い，**堅**は之を許す。

■九月，甲寅（２４日），故の會稽王妃の**王氏**（王述の從妹）を追尊して**順皇后**と曰い，**帝**の母の**李氏**を尊して**淑妃**と為す。
■冬，十月，丁卯（８日），**簡文帝**を高平陵に葬す。
■［妖人の**盧悚**の乱鎮圧、海西公は放免］彭城（南渡の後、彭城郡を晉陵の界に僑置す）の妖人の**盧悚**は自ら大道祭酒と稱し，之に事える者は八百餘家。十一月，弟子の**許龍**を遣わして吳に如かしめ，晨に**海西公**の門に到り，**太后**の密詔と稱し，奉迎して興復せんとす。**公**は初め之に從わんと欲するも，保母の諫めを納れて而して止む。**龍**は曰く、
「大事は捷つに垂々とするに，焉んぞ兒女子の言を用いん乎！」
公は曰く、
「我は此に罪を得，幸いにも寛宥を蒙むるに，豈に敢えて妄動せんや！且つ**太后**の詔有れば，便ち應に官屬が來たるらん，何ぞ獨り汝を使わさん也？汝は必ず亂を為さん！」
因りて左右を叱り之を縛せしめんとし，**龍**は懼れて而して走る。甲午（５日），**悚**は衆三百人を帥いて，
(6-226p) 晨に廣莫門（建康城北門）を攻める。
「**海西公**は還る」
と詐稱し，雲龍門より殿庭に突入し，武庫の甲仗を略取し，門下の吏士は駭愕して為す所を知らず。游擊將軍の**毛安之**は難を聞き，衆を帥いて直ちに雲龍門に入り，手自ら奮擊す。左衛將軍の**殷康**，中領軍の**桓秘**は止車門に入り，**安之**と並んで力討して之，並びに黨與を誅し死者は數百人なり。**海西公**は深く横禍を慮り，飲酒を專らにし，聲色を恣にして，子有り育てず，時の人は之を憐れむ。朝廷は其の屈辱に安んじるを以て，故に復た虞り（備え）を為さず。
前秦秦の都督北蕃諸軍事、鎮北大將軍、開府儀同三司、朔方桓侯の**梁平**は老いて卒す。**平老**（朔方に鎮するは 100 卷穆帝升平三年に始まる）は鎮に在ること十餘年，鮮卑、匈奴は憚り而して之を愛す。
■三吳（吳郡・吳興・義興）は大旱し，饑え，人は多く餓死す。

烈宗孝武皇帝上之上、太宗簡文皇帝寧康元年（癸酉，３７３年）

（烈宗孝武皇帝は諱は曜、字は昌明、簡文皇帝の第三子）
■春，正月，己丑（１日）朔，大赦して，改元す。

【桓温遂に薨じ、少子桓玄後継者となる】

■［朝廷に乗り込んで威圧する桓溫を謝安は軽くいなす］二月，大司馬の**溫**は來朝す。辛巳（２４日），吏部尚書の**謝安**、侍中の**王坦之**に詔して新亭に迎えしむ。是の時，都下の人情は恟恟として，或は雲う、

「**王**、**謝**を誅して，因りて晉室を移さんと欲す。」

坦之は甚だ懼れ，**安**は神色變わらず，曰く、

「晉祚の存亡は，此の行に決す。」

溫は既に至り，百官は道側に拜す。**溫**は大いに兵衛を陳ね，朝士を延見し，位望（官位と名望）有る者は皆な戰慄（恐懼）して色を失い，**坦之**は流汗して衣を沾し，倒に手版（笏）を執る。**安**は從容として席に就き，坐は定まり，**溫**に謂って曰く、

「**安**は聞くに諸侯の道有れば（正しければ），四鄰に守り在り（左傳に楚の沈尹戌の言）と，**明公**は何ぞ壁の後ろに人を置くを須いんや邪！」

溫は笑いて曰く、

「正に自ら爾らざる能わず。」

遂に左右に命じて之を撤せしめ，**安**と笑語して日を移す。**郗超**は常に**溫**の謀主為り，**安**は**坦之**と與に**溫**を見，**溫**は**超**をして帳中に臥して其の言を聽か使む。風は動き帳は開き，**安**は笑いて曰く、

「**郗生**は入幕之賓と謂う可し矣。」

時に**天子**は幼弱にして，外に強臣有り，**安**は**坦之**と忠を盡くして輔衛し，卒に晉室を安んじる。

■［桓溫は盧悚の乱の処置して還る］**溫**は**盧悚**が宮に入る事を治め，尚書の**陸始**を收めて廷尉に付け，**桓秘**の官を免じ，連坐する者は甚だ衆し。**毛安之**を遷して右衛將軍と為し，**桓秘**は是に由りて**溫**を怨む。三月，**溫**は疾有り，建康に停まること十四日，甲午（７日），姑孰に還る。

●夏，代王の**什翼犍**は**燕鳳**をして秦に入貢せ使む。

■［桓溫は野望を遂げず薨ず、少子桓玄後継となる］秋，七月，己亥（１４日），南郡の宣武公の**桓溫**は薨ず。初め，**溫**の疾は篤きに，朝廷に諷して九錫を求め，屢々使人を使わして之を趣かしむ（促す）。**謝安**、**王坦之**は故に其の事を緩やかにして，**袁宏**をして草（草稿）を具せ使む。**宏**は以て**王彪之**に示し，（6-227p）**彪之**は其の文辭之美を歎いて，因りて曰く、

「卿は固より大才なり，安んぞ此れを以て人に示す可けんや！」（まさにこんな文を書くべきでない）

謝安は其の草を見，輒ち之を改め，是に由りて旬を歷りても就かず。**宏**は密かに**彪之**に謀り，**彪之**は曰く、

「彼の病は日に增すと聞き，亦た當に復た久しきを支えざるに，自ら更に小しく遲回す可し。」

宏は之に從う。**溫**の弟の江州刺史の**沖**は，**溫**に問うに**謝安**、**王坦之**の任ずる所を以てす，**溫**は曰く、

「渠等は汝の處分する所と為らず。」

其の意は以為らく，

「己れが存すれば，彼は必ず敢えて異を立てず，死ねば則ち**沖**の制する所に非ず。若し之を害すれば，**沖**に益無し，更に時望を失う故也。」

溫は世子の**熙**の才弱なるを以て，**沖**をして其の衆を領せ使む。是に於いて**桓秘**は**熙**の弟の**濟**と共に**沖**を殺さんと謀り，**沖**は密かに之を知り，敢えて入らず。俄頃に，**溫**は薨じ，**沖**は先ず力士を遣わして**熙**、**濟**を拘錄（拘束）し而る後に喪に臨む。**秘**は遂に廢棄せ被れ，**熙**、**濟**は俱に長沙に徙される。詔して**溫**を漢の**霍光**及び**安平獻王**の故事に依りて葬せしむ。**沖**は**溫**の遺命と稱して，少子の**玄**（桓玄は後に楚王を称す）を以て嗣と為す，時に方に五歲，南郡公に襲封す。

■［桓溫の領土の三分割、桓沖の忠節］庚戌（２５日），右將軍、荊州刺史の**桓豁**に征西將軍，督荊、揚（梁と作るべし）州、雍、交、廣五州諸軍事を加える。江州刺史の**桓沖**を以て中軍將軍、都督揚、豫、江三州諸軍事、揚、豫二州刺史と為し，姑孰に鎮せしむ。竟陵太守の**桓石秀**を寧遠將軍、江州刺史と為し，尋陽に鎮せしむ。**石秀**は，**豁**之子也。**沖**は既に**溫**に代わりて任に居り，王室に忠を盡くし，或は**沖**に、

「時望（時代の名望）を誅除し，專ら時權を執らん」

と勸めるも，**沖**は從わず。始め，**溫**は鎮に在りて，死罪は皆な專決して請わず。**沖**は以て為す、

「生殺之重きは，當に朝廷に歸すべし」，

凡そ大辟は皆な先ず上げて，報らせを須ちて，然る後に之を行う。

■［謝安は專權のため崇德太后に臨朝を求める］**謝安**は**天子**の幼沖なるに，新たに元輔を喪えるを以て，**崇德太后**に請いて朝に臨ましめんと欲す。**王彪之**は曰く、

「前世**人主**は幼くして襁褓（おむつ）在り，母子一體にして，故に朝に臨む可し。**太后**も亦た事を決する能わず，顧問の大臣を須ちて要す。今**上**は年は十歲を出で，冠婚に及ぶに垂々とし，反って從嫂（從兄の妻、帝は元帝の孫で、康帝に於いては從帝なり、故に太后は帝の從嫂なり）をして臨朝せ令むれば，**人君**の幼弱を示し，豈に聖德を光揚する所以なる乎！諸公は必らず此れを行なわんと欲し，豈に僕の制する所なるや，惜しむ所の者は大體耳。」

安は**桓沖**に委任するを欲せず，故に**太后**をして臨朝せ使め，己が以て專ら獻替（実行すべきを進言し、取り止めるべきを諫める）裁決するを得んとし，遂に**彪之**之言に從わず。八月，壬子（壬申なら１７日），**太后**は復た朝に臨みて攝政す。

■［楊亮の仇池攻略失敗］梁州刺史の**楊亮**は其の子の**廣**を遣わして仇池（簡文帝咸安九年に秦は仇池を取る）を襲わしめ，秦の梁州刺史の**楊安**と戰い，**廣**の兵は敗れ，沮水（陝西省漢中道）の諸戍は皆な城を委てて奔潰す。**亮**は懼れ，退きて磐險を守る。九月，**安**は進みて漢川（漢中）を攻める。

■丙申（１２日），**王彪之**を以て尚書令と為し，**謝安**を僕射と為し，吏部を領せしめ，共に朝政を掌らしむ。**(6-228p) 安**は毎に歎じて曰く、

「朝廷の大事は，衆の決する能わざる所の者は，以て王公に咨れば，立ちどころに決せざるは無し。」

■吳國內史の**刁彝**を以て徐、兗二州刺史と為し，廣陵に鎮せしむ。

【秦の梁州益州攻略】

前秦［苻堅は大挙して梁州益州を取る］冬，秦王の**堅**は益州刺史の**王統**、秘書監の**朱肜**をして卒二萬を帥いて漢川に出で使め，前禁將軍（秦は四禁將軍を置く）の**毛當**、鷹揚將軍の**徐成**をして卒三萬を帥いて劍門（蜀の北入口、四川省嘉陵道劍閣県、現・広元市劍閣県）に出でしめ，入りて梁、益を寇せしむ。梁州刺史の**楊亮**は巴獠の萬餘を帥いて之を拒み，青谷（陝西省漢中道洋県、現・漢中市洋県）に於いて戰う。**亮**の兵は敗れ，奔りて西城（県、陝西省漢中道安康県の西北、現・安康市漢浜区）を固める。**肜**は遂に漢中を拔く。**徐成**は劍門を攻め，之に克つ。**楊安**は進みて梓潼（県郡、四川省西川道梓潼県、現・綿陽市梓潼県）を攻め，梓潼太守の**周飜**は固く涪城を守り，步騎數千を遣わして母、妻を送り漢水より江陵に趣き，**朱肜**は邀えて而して之を獲り，**飜**は遂に安に降る。十一月，**安**は梓潼に克つ。荊州刺史の**桓豁**は江夏の相の**竺瑤**を遣わして梁、益を救わしむ。**瑤**は廣漢太守の**趙長**が戰死すると聞き，兵を引いて退く。益州刺史の**周仲孫**は兵を勒して**朱肜**を綿竹に拒み，**毛當**の將に成都に至るを聞き，**仲孫**は騎五千を帥いて南中に奔る。秦は遂に梁、益二州を取り，邛、莋、夜郎

は皆な秦に附く。秦王の**堅**は**楊安**を以て益州牧と為し，成都に鎮せしむ。**毛當**を梁州刺史と為し，漢中に鎮せしむ。**姚萇**を寧州刺史と為し，墊江（現・重慶市墊江県）に屯せしむ。**王統**を南秦州刺史と為し，仇池に鎮せしむ。

前秦[周虓は尚書郎任命を辞退]秦王の**堅**は**周虓**を以て尚書郎と為さんと欲す。**虓**は曰く、

「晉の厚恩を蒙むるに，但だ老母を獲られ見れれば，節を此に失い，母子全くすを獲たり，秦之惠み也。公侯之貴きと雖も，以て榮と為さず，況んや郎官を乎！」

遂に仕えず。**堅**を見る毎に，或は箕踞（うずくまる）して而して坐し，呼びて氐賊（苻堅は氐であることから）と為す。嘗て元會（正月一日の朝会）に値う，儀衛は甚だ盛んなり，**堅**は之に問いて曰く、

「晉朝の元會は，此と何如？」

虓は袂を攘い聲を厲まして曰く、

「犬羊（秦の君臣は全て六夷なのを誹る）は相い聚まり，何の敢て天朝（晉）に比擬する！」

秦人は**虓**を以て不遜とし，屢々之を殺すを請い，**堅**は之待つこと彌々厚し。

■［毛虎生の反撃も成らず］**周仲孫**は守りを失うに坐して官を免ぜらる。**桓沖**は冠軍將軍の**毛虎生**を以て益州刺史と為し，建平太守を領せしめ，**虎生**の子の**球**を以て梓潼太守と為す。**虎生**は**球**と秦を伐ち，巴西（嘉陵道閬中県の西、現・南充市閬中市）に至り，糧乏しきを以て，退きて巴東に屯す。

■侍中の**王坦之**を以て中書令と為し，丹楊尹を領せしむ。

【秦の苻堅の思想】

前秦是の歲，鮮卑の**勃寒**は隴右を寇掠し，秦王の**堅**は**乞伏司繁**をして之を討た使む。**勃寒**は降を請い，遂に**司繁**をして勇士川（甘粛省蘭山道金県、現・蘭州市榆中県）に鎮せしむ。

前秦［彗星の予言、聞かず］彗星有り尾箕（28 宿）に出で，長さ十餘丈，太微を經て，東井を掃う。四月より始めて見られ，(6-229p) 秋冬に及びて滅せず。秦の太史令の**張孟**は秦王の**堅**に言って曰く、

「尾、箕は，燕の分、東井は，秦の分也。今彗は尾、箕に起こりて而して東井を掃く，十年之後に，燕は當に秦を滅ほさん。二十年之後に，代は當に燕を滅ぼさん。**慕容暐**の父子兄弟は，我之仇敵なり，而るに朝廷に布列し，貴く盛んなること二莫し，臣は竊かに之を憂い，宜しく其の魁桀を抱く者を翦り，以て天變を消すべし。」

堅は聽かず。

前秦［苻堅は夷狄も赤子と称する思想］陽平公の**融**は上疏して曰く、

「東胡（鮮卑はその餘種）は六州に跨據し，南面して帝と稱す，**陛下**は師（前巻海西公太和四年五年にあり）を勞すること累年，然る後に之を得，本より義を慕いて而して來たるに非ず。今**陛下**は親しく而して之を幸し，其の父子兄弟をして森然として朝に滿た使め，權を執りて職を履み，勢いは勳舊を傾ける。臣は愚かにも以為うに狼虎之心は，終に養う可からず，星變は此くの如し，願はくは少しくは留意すべし。」

堅は報じて曰く、

「**朕**は方に六合を混ぜて一家と為し，夷狄を視て赤子と為す。汝は宜しく慮りを息め，耿介（憂慮）を懷く勿かれ。夫れ惟だ德を修め以て災いを禳う可し，苟しくも能く內に諸を己に求めれば，何ぞ外患を懼れる乎！」

太宗簡文皇帝寧康二年（甲戌，３７４年）

■春，正月，癸未（１日）朔，大赦す。

■［謝安の風流は俗となる］己酉（２７日），刁彝（ちょうい）は卒す。二月，癸丑（１日），**王坦之**を以て都督徐、兗、青三州諸軍事、徐、兗二州刺史と為し，廣陵に鎮せしむ。**謝安**に詔して中書（尚書も兼任）を總ぜしむ。**安**は聲律（音の高低の調子、音楽）を好み，期功（期及び大功小功の喪）之慘にも，絲竹（楽器）を廃せず，士大夫は之に效（なら）い，遂に以て俗と成る。**王坦之**は屢々書を以て之に苦諫して曰く、

「天下之寶（禮法は天下の宝）は，當に天下の為に之を惜しむべし。」

安は従う能わず。

前秦三月，秦の太尉の建寧の列公の**李威**は卒す。

前秦■［蜀人反乱、晉も巻き込み内肛の末に前秦勝つ］夏，五月，蜀人の**張育**、**楊光**は兵を起こして秦を撃ち，衆二萬有り，遣使して來たりて兵を請う。秦王の**堅**は鎮軍將軍の**鄧羌**を遣わして甲士五萬を帥いて之を討たしむ。益州刺史の**竺瑤**、威遠將軍の**桓石虔**は衆三萬を帥いて墊江（現・四川省重慶市墊江県）を攻め，**姚萇**の兵は敗れ，退きて五城（廣漢郡の県、四川省嘉陵道中江県、現・徳陽市中江県）に屯す。**瑤**、**石虔**は巴東（現・湖南省恩施トゥチャ族ミャオ族自治州巴東県）に屯す。**張育**は自ら蜀王を號し，巴獠の酋帥の**張重**、**尹萬**等と與に五萬餘人進みて成都を圍む。六月，**育**は改元して黑龍とす。秋，七月，**張育**は**張重**等と權を爭い，兵を擧げて相い攻め，秦の**楊安**、**鄧羌**は**育**を襲いて，之を敗り，**育**は**楊光**と退きて綿竹に屯す。八月，**鄧羌**は晉兵を涪西（現・四川省遂寧市射洪市涪西鎮）に敗る。九月，**楊安**は**張重**、**尹萬**を成都の南に敗り，**重**は死し，斬首は二萬三千級。**鄧羌**は**張育**、**楊光**を綿竹に撃ち，皆な之を斬る。益州は復た秦に入る。

前秦［前秦には鮮卑慕容を警戒する動き多し］冬，十二月，人有り秦の明光殿に入りて大呼して曰く、

「甲申（太元九年）、乙酉（太元十年），魚羊（鮮卑を暗示）は人を食い，(6-230p) 悲しい哉（かな）復た遺（のこ）る無し！」

秦王の**堅**は之を執るを命じ，獲らえず。秘書監の**朱肜**、秘書侍郎の略陽の**趙整**は固く諸々鮮卑を誅するを請い，**堅**は聽かず。**整**は，宦官也，博聞にして強記，能く文を屬し，好く直言し，上書及び面諫は，前後五十餘事なり。**慕容垂**の夫人（段夫人）は**堅**の幸を得，**堅**は之と輦を同じくして後庭に游び，**整**は歌って曰く、

「見ずや雀來たりて燕の室に入る，但だ浮雲の白日を蔽うを見る。」

堅は容を改めて之に謝し，夫人に命じて輦を下がらしむ。

●是の歳，代王の**什翼犍**は**劉衛辰**を撃ちて，南に走る。

太宗簡文皇帝寧康三年（乙亥，３７５年）

■春，正月，辛亥（５日），大赦す。

■［王坦之は卒す］夏，五月，丙午（２日），藍田の獻侯の**王坦之**は卒す。終わりに臨みて**謝安**、**桓沖**に書を與えて，惟だ國家を以て憂いと為し，言は私に及ばず。

■［桓沖は謝安の重望有るを認める］**桓沖**は**謝安**の素より重望有るを以て，揚州（京のある近畿の枢要）を以て之に讓らんと欲し，自ら外に出るを求める。桓氏の族黨は皆な以（おもえ）為らく計に非ずと，腕を扼して苦諫せざるは莫く，**郗超**も亦た深く之を止めるも，**沖**は皆な聽かず，之に處して澹然たり。甲寅（１０日），詔して**沖**を以て都督徐、豫、兗、青、揚五州諸軍事、徐州刺史と為し，京口に鎮せしむ。**安**を以て揚州刺史を領せしめ，並せて侍中を加える。

前秦［王猛は苻堅に晉を攻めるなと遺言］六月，秦の清河の武侯王の（王）**猛**は疾に寢ね，秦王の**堅**は親

ら之が為に南、北郊及宗廟、社稷に祈り，侍臣を分遣して遍く河、岳の諸神に禱らしむ。**猛**の疾は少しく療え，之が為に殊死（斬罪）以下を赦す。**猛**は上疏して曰く、

「圖らずも**陛下**は臣之命を以て而して天地之德を虧くとは，開闢已來，未だ之れ有らざる也。臣は聞く德に報いるは言を盡くすに如くは莫し，謹んで沒するに垂々とする之命を以て，竊かに遺款（遺言）を獻じん。伏して惟うに**陛下**の，威烈は八荒（八方の荒外）に振う乎，聲教は六合（天地東西南北）に光る乎，九州の百郡，十に其の七に居る，燕を平らげ蜀を定めて，芥を拾うが如き有り（容易いこと）。夫れ善く作す者は必ずしも善く成らず，善く始める者必ずしも善く終わらず，是く以て古先の哲王は，功業之易からずを知り，戰戰兢兢として，深き谷に臨むが如し。伏して惟うに**陛下**は，前聖を追蹤すれば，天下は幸甚なり！」

堅は之を覽て悲慟す。秋，七月，**堅**は親ら**猛**の第に至り疾を視，訪うに後事を以てす。**猛**は曰く、

「晉は江南に僻處すると雖も，然るに正朔を相い承け，上下は安和す。臣沒する之後は，願はくは晉を以て圖を為す勿かれ。鮮卑、西羌は，我之仇敵なり，終に人の患いを為さん，宜しく漸く之を除き，以て社稷に便ずべし。」

言い終わり而して卒す。**堅**は斂（葬送）に比すまで，三たび臨哭し，太子の**宏**に謂って曰く、

「天は吾をして六合を平壹せ使めんと欲せざる耶！何ぞ吾が**景略**（軍師）を奪う之速やかなる也！」

之を葬するに漢の**霍光**の故事の如し。

■八月，癸巳（２０日），**皇后**の**王氏**を立てて，大赦す。**后**は，**濛**（清談を善くす）之孫也。**后**の父の晉陵太守の**蘊**を以て光祿大夫と為し，**(6-231p)** 五兵尚書（魏の置く官）を領せしめ，建昌縣侯に封じ，**蘊**は固辭して受けず。

■［帝の文を徐邈は添削して出す］九月，**帝**は《孝經》を講じ，始めて典を覽じ籍に和し（続に和無し），儒士を延く。**謝安**は東莞の**徐邈**を薦めて中書舍人に補し，毎に顧問を被り，匡益する所多し。**帝**は或いは宴集し，酣樂（歓楽）之後に，好みて手詔や詩章を為り以て侍臣に賜わり，或いは文詞は率爾（出し抜けに）にして，言う所は穢雜なり。**邈**は時に應じて收斂（収め纏める）し省に還りて刊削（添削）し，皆な觀る可から使め，**帝**の重覽を經て，然る後に之を出し，時議（その時の状況、判断）は此を以て**邈**を多とする。

■冬，十月，癸酉（１日）朔，日之を食する有り。

前秦［苻堅の儒教重視、学問振興の徹底］秦王の**堅**は下詔して曰く、

「新たに賢輔を喪い，百司或いは未だ**朕**の心に稱わず，聽訟觀（訴訟を聞く館）を未央（宮）の南に置く可し，**朕**は五日に一たび臨み，以て民の隱（隠れた事情）を求めん。今天下は未だ大きく定まらずと雖も，權に武を偃せ文を修める可し，以て**武侯**（王猛の諡）の雅旨に稱わん。其れ儒教を增し，**老**、**莊**、圖讖（予言）之學を禁じ，犯す者は棄市せん。」

學生を妙簡（精選）し，**太子**及び公侯百僚之子は皆な就學して業を受けしむ。中外（中軍将軍外事将軍）四禁（前後左右の禁将軍）、二衛（左右衛将軍）、四軍（衛軍撫軍鎮軍冠軍）長上（長上宿衛）の將士，皆な學を受け令む。二十人に一經生を給し，讀音句を教え，後宮には典學を置き以て掖庭を教え，閹人（宦官）及び女隸（没入せられて官婢となる者）の敏慧なる者を選びて博士に詣りて經を授からしむ。尚書郎の**王佩**は讖を讀み，**堅**は之を殺す，讖を學ぶ者は遂に絕える。

令和３年１月２日　　翻訳開始　　10039 文字
令和３年１月６日　　翻訳終了　　20166 文字　現代地名・年表対応
令和３年 12 月 13 日　　書下し終了　　20977 文字